記者発表資料

平成２７年７月１０日
国土交通省東北地方整備局
磐城国道事務所

未来の土木技術者が工事現場体験
～岩瀬農業高等学校生が平バイパス・久之浜バイパスを見学～

平成２７年７月１３日（月）、一般国道４９号平バイパスの上荒川トンネル及び、国道６号久之浜バイパスの改良工事を福島県立岩瀬農業高等学校環境工学科の生徒さんが見学いたします。

この見学会は、若年者の建設現場見学会並びに建設現場実習の一環として、一般社団法人福島県建設業協会の主催によるものです。

未来を担う若き技術者の皆さんに、実際の工事現場を身近に知ってもらい、これを機会に建設業への理解も深まればと考えております。

１．日　時　平成２７年７月１３日（月）　　１０：１０～１４：２０

２．場　所　平バイパス　上荒川トンネル　　１０：１０～１１：３０
　　久之浜バイパス　改良工事　　１３：００～１４：２０

３．見学者　福島県立岩瀬農業高等学校 環境工学科 １年生 ４０名

４．その他　報道関係の方におかれましては、１０：１０に上荒川トンネルの工事現場（別添位置図参照）に集合願います。

発表記者会等：いわき記者会、いわき記者クラブ、いわき市ふるさと発信課、福島建設工業新聞

問い合わせ

◆事業に関する事
国土交通省　東北地方整備局　磐城国道事務所
TEL ０２４６－２３－２２１１（代表）
副 所 長　千葉　富彦　（内線２０４）
工務課長　岩渕　誠　（内線４１１）

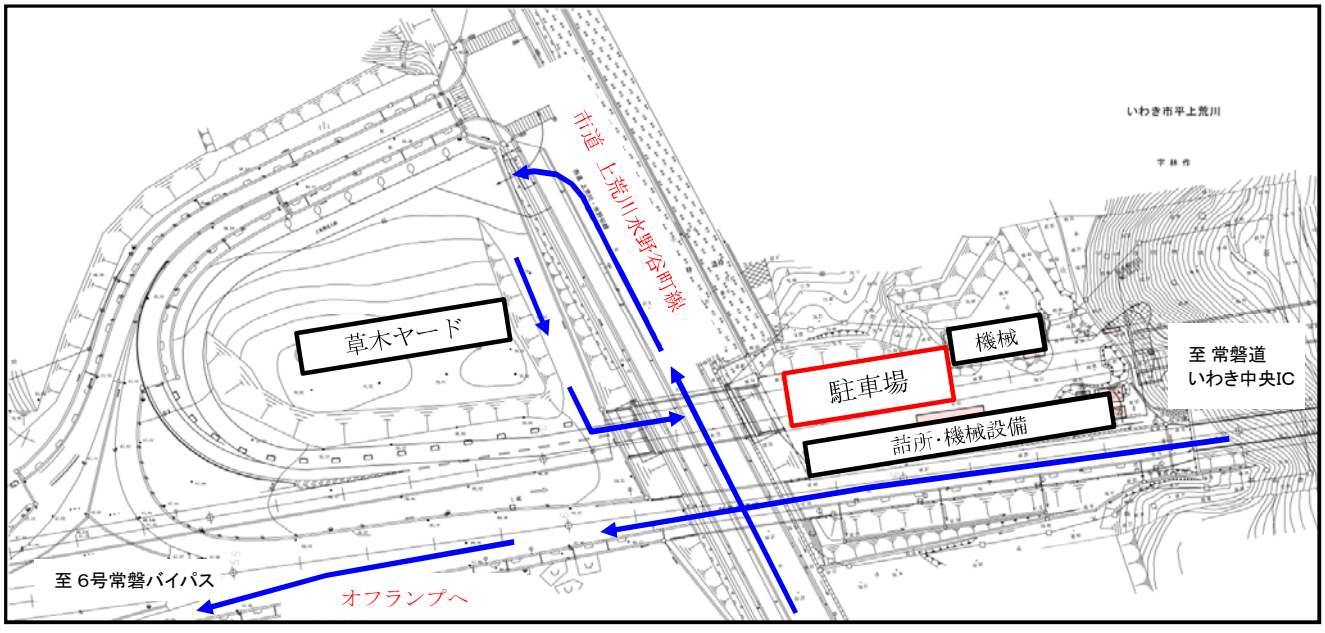
◆見学会に関する事
一般社団法人福島県建設業協会
TEL　０２４－５２１－０２４４
浅野　聡一

国道49号　上荒川トンネル　工事箇所

位置図



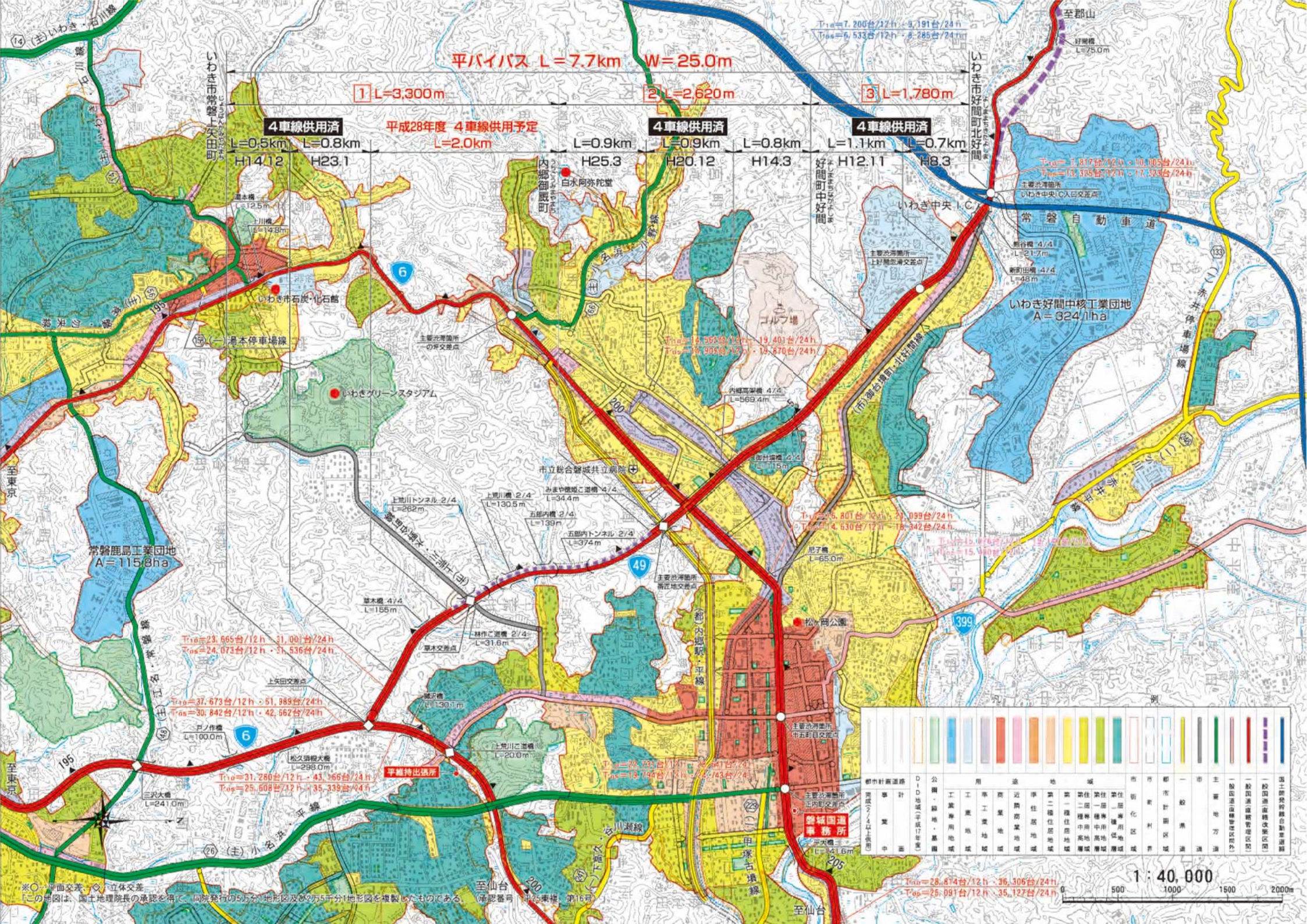
拡大図



国道6号　久之浜バイパス　工事箇所






平バイパス L＝7.7km W＝25.0m
1 L=3,300m
2 L=2,620m
3 L=1,780m
4車線供用済
L=0.5km
H14.12
L=0.8km
H23.1
平成28年度 4車線供用予定
L=2.0km
L=0.9km
H25.3
4車線供用済
L=0.9km
H20.12
L=0.8km
H14.3
4車線供用済
L=1.1km
H12.11
L=0.7km
H8.3
いわき市常磐上矢田町
いわき市好間町北好間
いわき市好間町中好間
至郡山
いわき中央ＩＣ
常磐自動車道
いわき好間中核工業団地
A＝324.1ha
常磐鹿島工業団地
A＝115.8ha
いわき市石炭・化石館
いわきグリーンスタジアム
白水阿弥陀堂
内郷御厩町
ゴルフ場
市立総合磐城共立病院
松ヶ岡公園
磐城国道事務所
平潟特出張所
至東京
至仙台
至いわき
至小名浜
至平
至内郷
至湯本
至好間
至中好間
至北好間
至常磐
至鹿島
至鹿島・小名浜
至小名浜・平
至内郷駅・平線
至湯本停車場線
至いわき停車場線
至常磐鹿島・三神ヶ丘
至御台場町・北好間線
至内郷御厩町・下高久
至白水・塚合線
至塚合・磐城
至川前線
至下高久・白水
至小名浜・石川線
至常磐湯本・三神ヶ丘
湯本橋 L=125m
十川橋 L=148m
上荒川トンネル 2/4 L=262m
上荒川橋 2/4 L=130.5m
みまや橋架道橋 4/4 L=34.4m
五郎内橋 2/4 L=139m
五郎内トンネル 2/4 L=374m
内郷高架橋 4/4 L=569.4m
御台場橋 4/4 L=115m
草木橋 4/4 L=155m
耕作ご道橋 2/4 L=31.6m
城沢橋 L=130.1m
上荒川ご道橋 L=20.0m
戸ノ作橋 L=100.0m
松久須根大橋 L=298.0m
三沢大橋 L=241.0m
尼子橋 L=65.0m
平内橋 L=41.6m
好間橋 L=75.0m
熊谷橋 4/4 L=21.7m
新町出橋 4/4 L=48m
T10＝7,200台/12h・9,191台/24h
T05＝6,533台/12h・8,285台/24h
T10＝7,817台/12h・10,005台/24h
T05＝13,375台/12h・17,123台/24h
T10＝16,503台/12h・19,401台/24h
T05＝16,905台/12h・19,870台/24h
T10＝16,801台/12h・21,099台/24h
T05＝14,630台/12h・18,342台/24h
T10＝23,665台/12h・31,000台/24h
T05＝24,073台/12h・31,536台/24h
T10＝37,673台/12h・51,989台/24h
T05＝30,842台/12h・42,562台/24h
T10＝31,280台/12h・43,166台/24h
T05＝25,608台/12h・35,339台/24h
T10＝28,874台/12h・36,306台/24h
T05＝25,091台/12h・35,127台/24h
主要渋滞箇所 いわき中央ＩＣ入口交差点
主要渋滞箇所 上好間交差点
主要渋滞箇所 一の沢交差点
主要渋滞箇所 高久地交差点
主要渋滞箇所 市五町目交差点
主要渋滞箇所 正内町交差点
凡例
都市計画道路 計画 事業中 完成（2／4以上供用）
DID地域（平成17年度）
公園・緑地・墓園
用途地域 工業専用地域 工業地域 準工業地域 商業地域 近隣商業地域 準住居地域
第一種住居地域 第二種住居地域
第一種中高層住居専用地域 第二種中高層住居専用地域
第一種低層住居専用地域 第二種低層住居専用地域
市街化区域 市街化調整区域
都市計画区域 一般県道 市道 主要地方道
一般国道（直轄管理区間） 一般国道（直轄管理区間以外） 一般国道（指定区間） 一般国道（指定区間以外） 国土開発幹線自動車道
1：40,000
0 500 1000 1500 2000m
※○…平面交差、◇…立体交差
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図及び2万5千分1地形図を複製したものである。（承認番号 平25東複、第16号）

平バイパスの事業概要

一般国道49号は、福島県いわき市から新潟県新潟市を結び、広域交流や沿道市町村の連携強化を支える延長約240kmの主要幹線道路です。平バイパスは、いわき市内の交通混雑や国道49号沿道の道路環境など、交通をとりまく環境の改善と常磐自動車道いわき中央ICへのアクセス機能強化を目的に、福島県いわき市常磐上矢田町～好間町北好間までのバイパスとして昭和56年度に事業着手し、平成7年9月に全線2車線で暫定供用しています。暫定供用以降は、交通混雑区間の4車線化や主要交差点の立体化等を段階的に整備し、平成24年度末の4車線整備率は、74%に達しました。

現在は、いわき市平上荒川～内郷御厩町までの区間（L=2.0km）の事業を促進し、平成28年度の全線4車線供用を目指しています。

●事業経緯

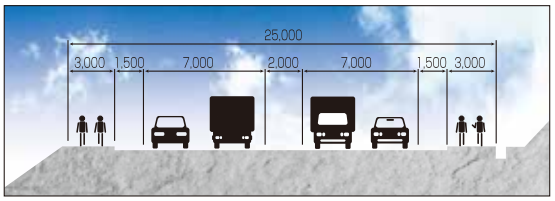
昭和47年度	調査着手
昭和56年度	事業着手(2･3工区)
昭和58年度	用地着手(2･3工区)
昭和59年度	工事着手(2･3工区)
昭和62年度	**2車線暫定供用(2･3工区)**
昭和62年度	事業着手(1工区)
平成元年度	用地･工事着手(1工区)
平成 7 年度	**2車線暫定供用(1工区)**
平成12年度	**4車線供用(3工区)**
平成12年度	番匠地交差点立体化完成　(平成12年11月)
平成14年度	上矢田交差点立体化完成　(平成14年12月)
平成22年度	4車線供用(1工区:常磐上矢田町～平上荒川　L=0.8km)
平成24年度	**4車線供用(2工区)**
平成28年度※1	**全線4車線供用予定**

※1:供用予定年度については、事業進捗等により、変更になる場合があります。

●道路構造諸元

延　長	7.7km
構造規格	3種1級（4車線）
設計速度	80km/h
曲線半径（最小）	400m
縦断勾配（最大）	4.0%

●標準横断図





▲内郷御厩町の交通渋滞状況（H25.9）

平バイパスの整備効果

■内郷高架橋の整備効果（平成24年度完成）

内郷高架橋は、国道6号、JR常磐線及び内郷市街地を通過する橋長569.4mの高架橋です。下り線側は、平成18年度に工事着手し、上り線側の耐震補強工事も実施しながら、平成25年2月に完成･供用しました。

通過する市街地に配慮した対策は、次のとおりです。

- ●橋の路面は、雨水が浸透し、騒音の低減効果もある舗装を採用しています。
- ●伸縮継手部には吸音材を設置して、伸縮継手部を車両が通過するときに発生する騒音を防いでいます。
- ●全線に透過性の落下物防止柵を設置しています。



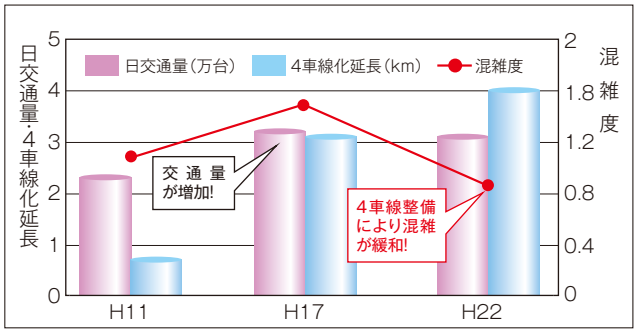
▲4車線供用した内郷高架橋

■4車線化整備事業（平成28年度全線供用予定）

平バイパスは、常磐バイパス（L=27.7km）が平成12年3月に全線暫定2車線で供用されると、いわき中央ICやいわき好間中核工業団地へのアクセス道路としての利便性が高くなり、主要な交差点では交通渋滞が発生しました。このため、交通渋滞の著しい区間から段階的に4車線化や立体交差点へ整備し、交通混雑の緩和を図っています。

4車線供用後の主な効果は、次のとおりです。

- ●交通容量が増加することから、朝夕の交通渋滞が緩和します。
- ●周辺道路の交通が平バイパスへ転換されることにより、市街地の交通混雑の緩和や沿道環境の改善が図られます。

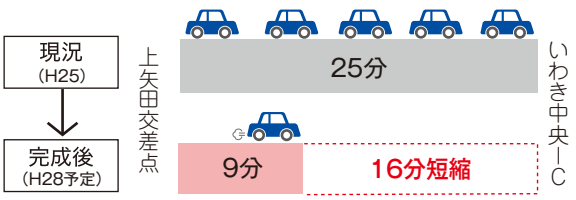


▲内郷御厩町番匠地の交通状況の推移（各年の道路交通センサス結果）

■事業効果（予測※2）

- ◉上矢田交差点～常磐自動車道いわき中央IC間の所要時間が25分（朝夕のピーク時）→約9分に短縮されます。
- ◉浜通り地方で唯一の第三次救急医療施設である総合磐城共立病院への速達性も向上します。

※2:平成25年度当初を現況とし、平成28年度全線4車線供用後の効果を予測したものです。





1 大型津波標識（国土交通省整備）



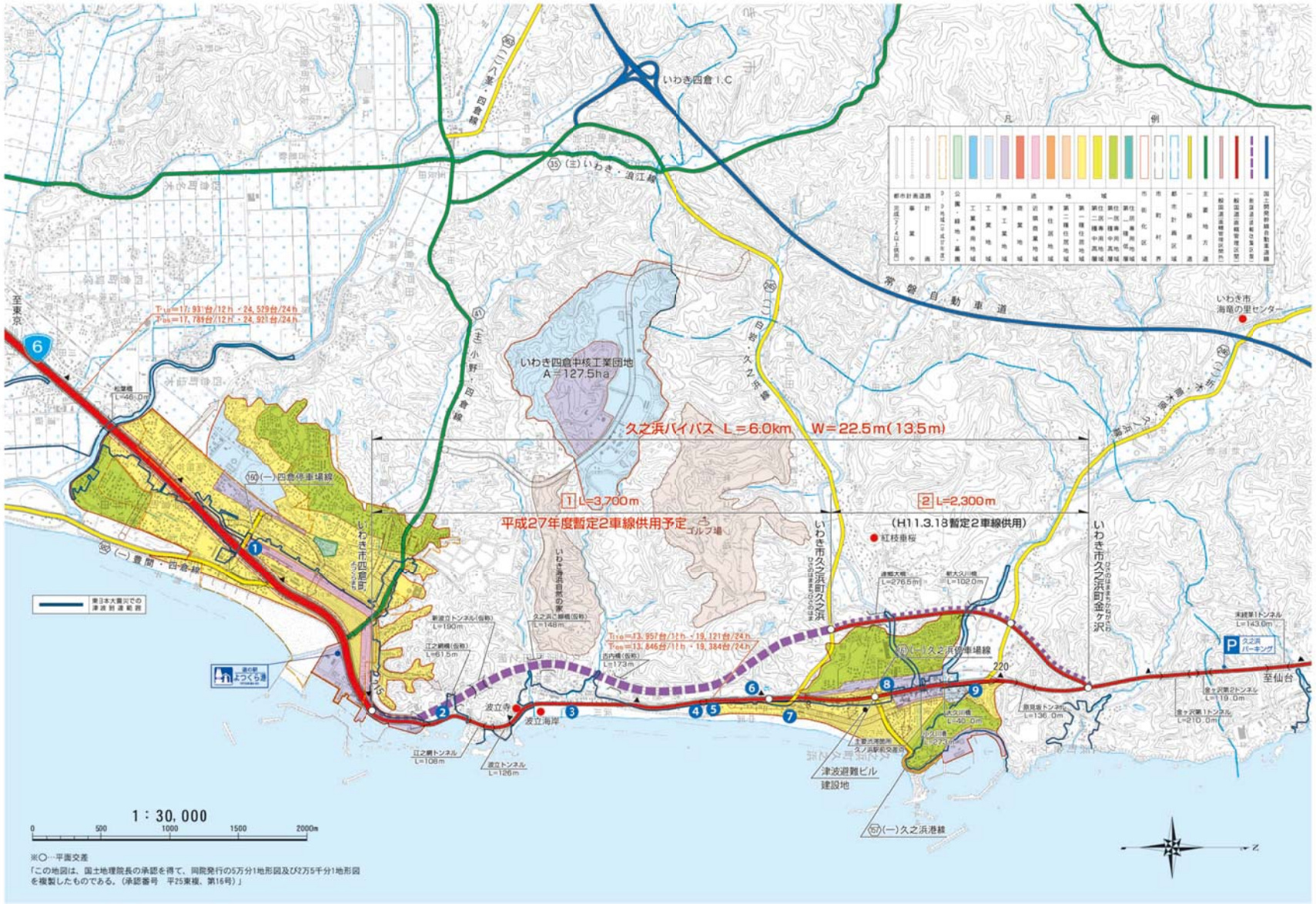
2 海抜表示シート（国土交通省整備）



3 工事中の波返し擁壁（国土交通省整備）



4 道路情報板（国土交通省整備）





5 小型津波標識（国土交通省整備）



6 津波デリニエーター（国土交通省整備）



7 工事中の海岸堤防（福島県整備）



8 久ノ浜駅前の避難誘導サイン（いわき市整備）



9 大型津波標識（国土交通省整備）

久之浜バイパスの事業概要

一般国道6号は、東京都中央区から宮城県仙台市を結び、浜通り地方の産業・経済・文化の交流を支える延長約431kmの主要幹線道路です。

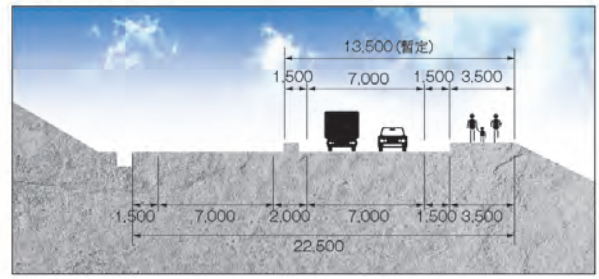
久之浜バイパスは、いわき市久之浜町における国道6号の平面線形不良区間や幅員が狭いトンネル、越波による交通障害など、道路構造上のボトルネックを解消し、主要幹線道路としての防災機能強化を目的に、福島県いわき市四倉町～久之浜町までのバイパスとして平成元年度に事業着手しました。

平成11年3月には、終点側の2工区（L=2.3km）を常磐自動車道いわき四倉ICと国道6号を結ぶアクセス道路として暫定的に2車線で供用しています。

●道路構造諸元

延　　長	6.0km
構 造 規 格	3種1級（4車線）
設 計 速 度	80km/h
曲線半径（最小）	300m
縦断勾配（最大）	4.0%

●標準横断図




▲セミトレーラの横転事故による通行止めの状況


▲大型車のすれ違いが困難な波立トンネル


▲越波による通行止めの状況


▲国道6号（久之浜町）の津波被害状況（H23.3）

●事業経緯

平成元年度	事業着手
平成７年度	用地・工事着手（2工区）
平成10年度	2車線暫定供用（2工区）
平成17年度	用地着手（1工区）
平成19年度	工事着手（1工区）
平成27年度※1	全線2車線暫定供用予定

※1：供用予定年度については、事業進捗等により、変更になる場合があります。

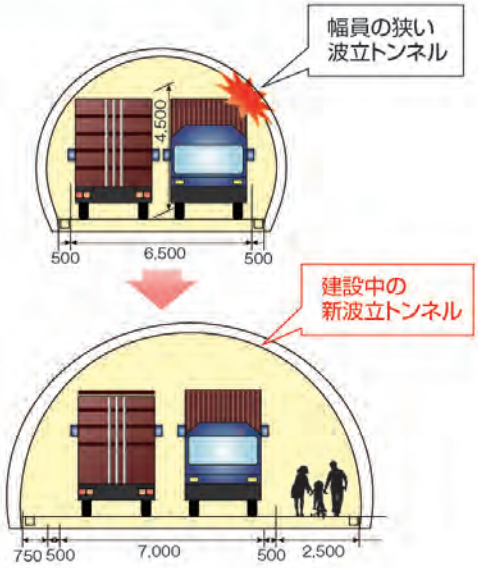
久之浜町は、初日の出・初詣の人気スポットである波立海岸・波立寺（波立薬師）など、いわき市でも有数の観光地でしたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では甚大な津波被害を受けました。

今般の未曾有の津波災害の教訓から、ハード・ソフト対策を組み合わせた「多重防御」の発想により、いわき市では「避難誘導サイン」や「津波避難ビル」などを、福島県では「海岸堤防の嵩上げ」や「津波防災緑地」などを、そして国土交通省では海岸沿いの「波返し擁壁」や「久之浜バイパス」などを整備することによって、総合的な防災力が向上したまちづくりを推進しています。

久之浜バイパスが全線暫定2車線で供用予定の平成27年度が久之浜町の“復興元年”として、従前のような観光客で賑わうまちとなるよう、未供用区間（L=3.7km）の整備に総力を挙げて取り組んでいます。

久之浜バイパスの整備効果

久之浜バイパスを利用することによる効果



◎平面線形不良区間の解消

2箇所の平面線形不良区間（R=90m）が解消され、交通事故が減少するとともに、物流交通の円滑化や安全性が向上します。

◎すれ違い困難箇所の解消

大型車のすれ違いが困難な幅員の狭いトンネル箇所（江之網トンネル・波立トンネル）が解消され、安全性が向上します。

◎越波による交通障害の解消

気象条件に左右されることなく、安心して走行できるようになります。

◎久之浜市街地の沿道環境の改善

久之浜町を通過する交通が久之浜バイパスを利用することにより、久之浜市街地の道路交通騒音が低減するなど、沿道環境が改善されます。

東日本大震災の教訓をふまえた新たな効果

◎緊急輸送道路としての安全性・信頼性の向上

久之浜町は、東日本大震災時の津波では7mを超える津波高さを記録しましたが、完成していた江之網橋には被害はありませんでした。

久之浜バイパスが全線供用されることにより、安全で信頼性の高い道路ネットワークが確保されます。

◎より迅速な道路情報の収集

津波警報発令時においても道路パトロールが可能になることから、いわき市北部の道路情報収集体制が充実・強化されます。

◎新たに発生した交通渋滞の解消

福島第一原子力発電所事故対応に伴う車両により、朝夕の交通量が増加したため、各所で新たな交通渋滞が発生しています。

久之浜バイパスが代替ルートとなることにより、これらの交通渋滞が解消し、移動時間が短縮されます。

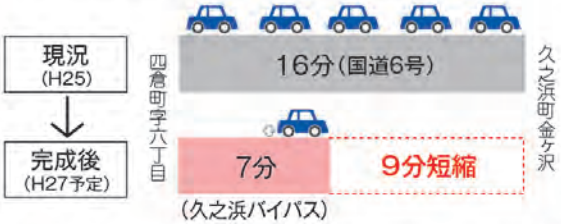


▲江之網地区の津波被害状況（H23.3）


▲久之浜町の交通渋滞状況（H25.9）

事業効果（予測※2）

久之浜バイパスを利用することにより、久之浜町を通過する時間が16分（朝夕のピーク時）→約7分に短縮し、交通渋滞が解消されます。



※2:平成25年度当初を現況とし、平成27年度全線2車線供用後の効果を予測したものです。

東日本大震災の記憶を風化させない取組

◎津波標識・津波デリニェーター・海抜表示シート

国道6号には、東日本大震災の津波で浸水した区間の前後に大型標識で、区間内には小型標識や津波デリニェーターなどで浸水した区間であることを明示しています。

これらは、道路利用者の皆さまが常日頃から浸水範囲を認識していただくことで、有事の際の避難行動の一助となることを目的としています。